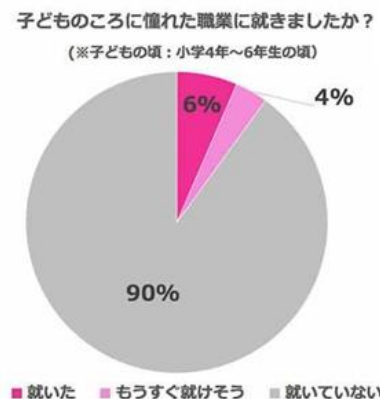


NOBIRU



1. 子どもの頃に思い描いていた将来

転職情報サービス「doda」が2017年に行った20代の男女310人へのアンケート調査によると、子どもの頃(小学4年～6年生)に憧れていた職業に就けた人は、約6%、もうすぐ就けそうな人を合わせても約10%だったそうです。また、他の調査では、中学生・高校生の頃に思い描いていたキャリアを歩まれている人はわずか1%というものもあります。ほとんどの人が、子どもの頃には想像もしなかった人生を歩んでいるようです。



なぜ、思い描いていたキャリアを歩まなかったのでしょうか？

- ・〇〇をめざし、努力したけれど、なれなかった。だから、違うことにチャレンジした…。
- ・●●をめざし、努力して目標は達成した。けれど、それが思い描いていたことと違ったので、別のことにチャレンジした…。
- ・☆☆を実現するには★★になるしかないと思っていたけれど、違ったアプローチもあることを知った…。
- ・自分は□□に関心があると思っていたけれど、□□よりも■■に、もっと関心を持つようになった…。

など、いろいろな理由があると思います。

挫折したり、迷ったり、試行錯誤したり、「仮の結論」を出して行動しては立ち止まって振り返り、新たな自分の一面を発見したり、自分の変化を感じたり…そうしたプロセスそのものに学びがあり、価値があります。最初に思い描いたものになれなかったからダメ、というような単純なものではありません。大切なことは…

「自分がこれからも大切にしたい価値観は何か？」

「自分はどのように生きていきたいのか？」

「そのためにこれから何をするのか？」ということです。



「予測不可能な社会」と言われる現代。そんな社会を生きていくことになる皆さんは、進路を考える時にどうすれば良いのでしょうか。まだ自分が何をしたいのか分からないという人もいるかもしれませんが、そうした人も、誰かに「教えてもらう」のを待つのではなく、いろいろなことに関心を持ち、「問い」をぶつけ、情報収集や選択肢の吟味をしながら、進路を探索していきましょう。先生たちはそれをサポートします。

※探索：ものごとを手に入れようとして探し求めること。
また、家族や先輩など、身近な年上の人に話を聞いてみるのも良いかもしれません。その人にとっての「楽しい」が、あなたにとっての「楽しい」と同じとは限りませんが、興味を持つきっかけにはなると思います。学校説明会や体験入学、オープンスクール、クラブ体験などに実際に行ってみて、その学校の雰囲気を感じてみてください。「自分には合わない」と感じたなら、違う選択肢を選びなおせばいいだけです。そうしてTry&Errorを繰り返しながら、自分の進みたい進路を見つけていきましょう。



2. 学校説明会・体験入学・オープンスクール、クラブ体験について

「百聞は一見に如かず」

ということわざがあります。意味は、百回聞くよりも、たった一度でも自分の目で見た方が確かだということです。

大阪府下には多くの学校があります。保育や看護、工業などの専門的な内容を学ぶ学校、自分の興味に合わせて教科を選択する学校、大学進学に力を入れている学校、クラブ活動に力を入れている学校など、さまざまな特色を持った学校があります。

名前を聞いたことがある学校、家族が卒業した学校、電車の吊り広告で見た学校…学校の名前を知る機会はいくつもありますが、実際に行ってみないと分からないことも多いです。

すでに気づいている人もいますが、そうした情報を皆さんにお知らせするために、3階西館のろうかにポスターやチラシを掲示しています。自分に関係ないと思う内容であっても、他の人には必要な情報かもしれません。破れたりにしないように気を付けましょう。

